

# 説林

## 無量壽宗要經考補

石濱純太郎

### 一 はしがき

わたくしは本誌第拾五卷第四號五二一四頁、敦煌古書雜考の四に於て無量壽宗要經に關する少しの見聞を記して置いたが、其後の知り得た所を補録して遺忘に備へたい。福田氏本に就いては岡教遂師がこの夏だつたか中外日報かに書かれてゐた様に覺えてゐるが、今はその詳を知る便宜を持たぬ。今茲に補録せんとするものも實はたゞ探り得た二三の材料を留めて後來の研究に資せんとする計りで、何等詳密なる考證をなし得

たものでないのを遺憾とする。以下引く所の諸譯字は一に自分流儀に従つてゐるが、他書から轉引するものは不統一ではあるが便宜上原著の儘にして置くのを許されたい。

### 二 西藏文本

イ 橋氏本

橋瑞超師の新疆探險記大正元年東京刊の巻首に「西域に於て獲たる寫經、年代不明、(西藏文字を以て寫されたものなり)」と題せる一葉の圖版がある。不幸にして逆さに印版されてゐるが、これを閲讀すると無量壽宗要經であつた。たゞ中間の一段十九行丈を見得るのであるが、スタイン本(Serindia, Plate CLXIII)本及び *Den Konow* 校刊本(福田本)に大體類似して

ゐるから、恐らくは敦煌本の一かと思はれる。圖版に見ゆる所を自分の字譯で掲げる。左端の羅馬數字は行數を示し、中間のアラビア數字はその已前がステノンノン本の某節に相當するを示す。眞言は各節の首でなく尾に屬するものと思ふが今は姑くノン本の通りとする。

- I. *che·lo·bryuṅ·thub·par·ṅgyur·te·|·de·nas·  
 ši·phos·nas·de·bzin·gšogs·pa·che·dpag·du·  
 myed·pai·sais·rgyas·kyi·žin·ājig·rten·gyi·*
- II. *khamṣ·yon·tan·dpag·du·myed·pa·la·scogs·  
 pa·skye·bar·ṅgyur·o·|·[6]·|·na·mo·ba·ga·ba·  
 te·a·pa·ri·myi·tha·a·yu·gña·na·su·bi·  
 ści·ta·ra·ja·ya*
- III. *ta·tha·ga·tha·ya·|·tad·thya·tha·om·sa·  
 rba·saṅ·ska·ra·pa·ri·śud·dha·dhar·ma·  
 te·ga·ga·na·sa·mu·dgaṅ·te·sva·bha·bha·  
 bi·śud·te·ma·ha·na·ya·pa·ri·ba·re·*
- IV. *svā·hā·|·|·yaṅ·dei·che·sais·rgyas·bye·  
 ba·phrag·dgu·bcu·rea·dguṣ·dgonṣ·pa·gčig·  
 dan·dbyanis·gčig·gis·che·dpag·du·myed·  
 pai·*
- V. *mdo·ādi·gsuṅ·so·|·[7]·na·mo· (以下眞言略  
 ず)*
- VI. (眞言續き) *yaṅ·dei·che·sais·rgyas·bye·ba·  
 phrag·bzi·*
- VII. *ču·rea·lias·dgonṣ·pa·gčig·dan·dbyanis·  
 gčig·gis·che·dpag·du·myed·pai·mdo·ādi·  
 gsuṅ·sō·|·[12]·na·mo· (以下眞言)*
- VIII. (眞言續き)
- IX. (眞言續き) *yaṅ·dei·che·sais·rgyas·bye·ba·  
 phrag·sum·ču·rea·drug·gis·dgonṣ·pa·gčig·  
 daiṅ·*
- X. *dbyanis·gčig·gis·che·dpag·du·myed·pai·  
 mdo·ādi·gsuṅ·sō·|·[13]·na·mo· (以下眞言)*

XI. (眞言續き)

XII. (眞言續き) yan·dei·che·sanis·rgyas·bye·

ba·phrag·hi·śu·rea·hias·dgois·pa·gčig·dan·

abyais·gčig·gis·che·dpag·du·mged·pai

XIII. mdo·adi·gsun·sō | [14] na·mo· (眞言)

XIV. (眞言續き) yan·dei·che·sanis·

XV. rgyas·bye·ba·phrag·gan·gai·klun·gi·bye·

ma·sřed·gyis·dgois·pa·gčig·dan·dbyais·

gčig·gis·che·dpag·du·myed·pai·adi·gsun·

sō | [15]

XVI. na·mo· (眞言)

XVII. (眞言續き) gan·zig·che·dpag·du·myed·

pai·mdo·adi·qdir·qjug·

XVIII. na·de·che·zad·pas·che·lo·bryaqa·thub·

par·gyur·te·che·yan·rnam·par·aphel·bar·

agyur·ro· | [16] na·mo· (眞言)

XIX. (眞言續き)

これを諸本と對校すると、大體は福田本及びコノ

ノT本に近い。即ち第八—十一節が無くて、第十二

節を存する點などがそれである。而し兩本との最も

大なる差異はコノ本の第十六節 (Wallerer 所載の

西藏本では第五節に相當するの ワルザアの書 ) である。コ

ノン氏は此節の校勘記 (Manuscript remains. p. 309,

note) 2) Paragraph 16 is missing in T, which

here inserts the passage repeated below in para.

18. と注して甘珠爾本 ( ワルザア引く所 ) で補つてゐる。

福田本もコノ本と同じ様になつてゐる。然るにこ

の橘本では正しく甘珠爾本に相當する長行が存して

ゐるから、奪符を補正し得るので極めて佳と云ふべ

きた。

ロ 寺本氏本

寺本婉雅師の西藏語文法 大正十一年京都刊 の巻首に「唐代の

西藏寫經 (敦煌發掘の著者所藏) 誤植がある 」と題する

圖版がある。僅か半截の三行に過ぎないが、これ亦

無量壽宗要經と丁度經の末尾の所である。

I. . . . . (g)žo . nur . agyur . pa . dan | lha . dan . myi

dan | lha . ma . yin . dan . | dri . za . bčas . p . . . . .

II. . . . . s . čhad . bčom . ldan . ađas . kyis . gsuns . pa .

la . mñon . bar . dgra . . . . .

III. . . . . ba . theg . pa . ŋhen . po . i . mdo . rjogs . so | |

後に師からこれも藏文寫本である事を教へられた。

ハ 其他著録せられたるもの

其他著録せられたるものを探り得たものは次の通り。

甲 Wilhelm Schott, Über den Buddhismus in

Hochasien und China. Berlin, 1846. p. 56.

Unter den tibetischen Werken des Asiatischen

Departements zu St. Petersburg befindet sich

auch eine „ Unterweisung des Buddha Salki-

amuni, betreffend die geheimen Mittel, das

Leben zu verlängern (?) und am Ende in den

paradiesischen Wohnungen des Buddha's Ab-

ida wiedergeboren zu werden. " So lautet die

russische Erklärung in dem (1843 gedruckten)

Kataloge aller ostasiatischen Bücher und Mss.

des erwähnten Departements. Der tibetische

Titel lautet: *P'ag-ya ts'e dang 'es-chei pag-tu*

*mel-pa jei-tschia-iva teg-pa tschen poi do*, d. i.

Sütra des grossen Mittels zum unendlichen

Leben und zu unermesslicher Weisheit.

按ちるにこれは本經の轉じあつて經名を可し

へ甘珠爾本と合する。Beckh, Verzeichnis. p.

122, No. 75 及び Walleser, p. 26 を參見す

ト。乃ち甘珠爾本と合する。

N Jacques Bacot, La collection tibétaine Schilling

von Canstadt à la Bibliothèque de l'Institut.

Journal Asiatique, Tome CCV, No.2: 1924. p.

3539. Traduit du sanscrit: (Arya) aparimita-yurjāna nama mahāyāna sūtra.

En tibétain: ('phags pa) tshé dan ye ges dpag tu med pa zés bya ba theg pa chen po'i mdo. Titre abrégé: Tshé mdo.

Sūtra de "Vie et Sagesse sans mesure".

[Kandjur, 7<sup>e</sup> partie (rgyud,) Cs., vol. 14; S., vol. 15.] Huit exemplaires. Petit format.

3540. Même que le précédent.—20 feuillets.

Petit format. (Imprimé au temple de la tribu des Attagans.)

3541. Même que le précédent.—29 feuillets. (Imprimé au temple de Gouzino Ozéro.)

按ずるに皆亦甘珠爾本であらう。

丙 禿氏祐祥、龍谷大學圖書館所藏 敦煌遺書略解説、龍谷大學

論叢第二百六十七號大正十五年四月號 一二八頁

無量壽宗要經考補

一一 西藏文無量壽宗要經 縱九寸二分

左より右に向つて二十行に横書す。六段あり。この無量壽宗要經に就いては矢吹氏の目錄に解説あり。

按ずるに彙文堂本にも一段十九行のもの二十行のものとなる。或はこれは彙文堂本の分身でないかとも思はれる。

丁 徐松、東朝崇養錄卷四 吳氏雙照樓刊松鄰叢書

甲編

乾隆三十六年慈寧太后八十萬壽の時毎日恭進

せる壽禮九九の目錄中二十二日の所に

聚金演梵金書無量壽智經一九九冊

と出てゐる。恐らく本經の西藏本即ち甘珠爾本の事であらうと思はれる。

### 三 回鶻文本

本經に回鶻文本の存在する事はわたくしは既に前

考に於て指摘して置いたが、それが刻本である事は

ミュラア博士の記す所である。然るにわたくしは我が大谷ミツシヨンの蒐集中にも回鶻文刻本の断片の存するを發見し得た。即ち「西域考古圖譜」下卷西域

語文書(25)の(2)梵語回鶻文字對照文書断片(吐峪溝)とあるがそれだ。存する所は僅々四行に過ぎないのであるから全體を推定し難いが、兎に角梵回合壁になつてゐる。右端に漢字で「四」とあるのは第四紙の事であるから、或はこれが最初の眞言である爲め合壁になつてゐるのかも知れない。回鶻文を字譯する。

- I. .... mata ayur....
- II. .... tjo...jai-a tatagatai-a
- III. .... sanryak sanbodai-a tadyata oom.
- IV. .... (sar)va sanskara barisulda darmati gagana

この断片は四方共に損じてゐるのだが、恐らく下端は文字を缺つてはゐるから。上端には三四綴位の

文字を存したものであらう。

偈てこの眞言を諸本と對校すると注意すべき結果となる。以下引く所の諸本の眞言と對照せよ。

梵本

Oin namo bhagavate Aparimitâyurjñānasuviniś-  
citatejorājāya tathagatāyārhatē sanryak sanbudd-  
hāya, tadyathā, oin punyamahāpunyaaparimita-  
punyaaparimitâyupunyajaiñānasambhārōpacite, oin  
sarvasaṅskārapariśuddhadharmate gaganasamu-  
dgate svabhāvaparīśuddhe mahānayaaparivāro  
svāhā.

これはコン本校本によつた。ワレザア池田兩本皆大同小異である。甘珠爾本ワレザア依るはこれと同じであるから下には擧げなす。

于闐本

Naman bhagavate Aparimatâyurjñānasuviniścā-  
tejaurājāya tathagatāyārhatē sanryatsabuddhāya

tadyathā aum sarvasaṅkārāparisuddhadharmate  
ggaṇasnuḍgate svabhāvavissuddhi mahānaya-par-  
ivare svāhā

これは固りコンン校本である。

西藏本

Tad·t̄ya·tha·na·mo·ba·ga·ba·te·A·pa·ri·  
mi·ta·a·yu·gīa·na·su·bi·ni·sci·ta·ra·dza·  
ya·ta·tha·ga·ta·ya·om·sa·rba·sai·ska·ra·  
pa·ri·śud·dha·dar·ma·te·ma·ha·na·ya·pa·  
ri·ba·re·sva·haḥ.

これもコンン校本によつた。甘珠爾本とは差  
違せるに關らずこの眞言に對してコンン氏が  
何の校記をも與へないのは不審である。且つ

セリンヂア圖版本福田本橋本は na·mo·ba·  
ga·ba·te· から始まり、この首にある tad·  
t̄ya·tha· の句は却つて ta·tha·ga·ta·ya·  
の次 om·sa·rba 云々の前に挿入されて居り、

無量壽宗要經考補

又 dar·ma·te の後 ma·ha·na·ya· の前  
に ga·ga·na·sa·mu·dgaḥ te | sba·bha·  
ba·bi·śud·te· の二句を含んでゐる。これ  
らは或はコンン本の誤脱でないかとも疑はれ  
る。

漢本

一、南謨薄伽勃底<sup>二</sup>阿波唎蜜哆<sup>三</sup>阿喩絃硯娜<sup>三</sup>須毗  
爾悉指隨四囉佐耶<sup>五</sup>怛他羯他耶<sup>六</sup>怛姪他唵<sup>七</sup>薩婆  
桑悉迦囉八波唎輸底<sup>九</sup>達磨底<sup>十</sup>伽迦娜<sup>十</sup>莎訶某特  
迦底<sup>十</sup>薩婆婆毗輸底<sup>十</sup>摩訶那耶<sup>十</sup>波唎婆囉莎訶<sup>十</sup>  
これはわたくしの藏する所によつた。松本博  
士の引かれた所<sup>一五九頁</sup>「佛典の研究」には文字の小異も  
ある様だが誤植が大分ある。

二。曇謨婆識囉帝阿播哩呬踰野曇素尾<sup>吉室止怛</sup>  
帝唵囉惹野怛他識哆野囉賀帝三麼藥訖三沒駄野怛  
爾也他唵薩囉僧塞迦囉波哩舜駄達陳麼帝識曇三  
母努葉帝娑嚩囉尾舜弟麼賀曇野波哩嚩黎娑嚩賀

これは法天譯であつて乍藏本ワレザアの巻尾にある影本によつたに依つた。發音に關する細注は無くても分るから略した。これの梵文還譯はワレザアの三八頁に出てゐる。

以上諸本を對照すると眞言丈では左の三類を分つ事となる。

- 一、西藏本 漢一(敦煌)本
- 二、漢二(法天)本 回鶻本 于闐本
- 三、梵本 甘珠爾本

而して第三類が最も新しいものなる事は言はざる事である。そこでベルリンの回鶻本によると梵本↓西藏本↓回鶻本の轉譯を推定せられるのだが、この對照の結果を以てしては今の所直接の證據とすべきものは看出さない事となる。然し大都この轉譯の推定は誤らないだらうから、ベルリン本の影本すら目眩せないのだが恐らくベルリン本と大谷本とは同一板本に屬すべきものと今姑く定めて置かう。何れこ

の回鶻本に近い西藏本も現はれ出づるだらう。

#### 四 蒙古文本

蒙古文本經の一本が露國に存するは次の著録で知れる。

- B. Ja. Vladimircov, Mongol'skie rukopisi i ksilografy, postupivšie v Aziatskij Muzej Rossijskoj Akademii nauk ot Prof. A. D. Rudneva. Mélanges asiatiques, tirés du Bulletin de l'Académie des Sciences de Russie, Nouvelle Série, 1918, p. 1554.
112. Qotoq tu čaqlasi ügüi nasun kigüt bülgüi biligtü nara tü yäkä külgän sudur orosiha: (Aparimta ayur jänana näma mahâyäna sütra. Feer. 329—330). Xyl. 24 × 7 $\frac{1}{2}$ , 32 + 1f.

#### 五 滿洲文本

滿洲文藏經の漢譯目錄は「衛藏通志」卷十六に收め



られてゐる。その目録中に

佛説大乘聖無量壽決定光明王如來陀羅尼經卷一

と著録されてゐる。これは正しく漢藏經中の法天譯

本縮藏成帙第八冊記  
藏第拾五套第貳冊の題名であるから、これから滿洲文

に譯されたものに相違ない。よつて滿文本には甘珠

爾本の譯本たる「秘殿珠林」著録本前考を  
見よと漢藏本の

譯本との二種有る事となる。

## 六 漢文本

西藏文彙文堂本が數部連續せるものなるは前に述

べたが、漢文本も數卷連續せるものがある様だ。乃

ち「清國學部所藏敦煌石室寫經總目録」松本博士「佛典

頁を見よ、この目録をわたくしは内藤  
湖南先生から借覽し得たるを感謝するを見ると、

地九十九

佛説大乘無量壽宗要陀羅尼經 二部

(誠語)已前六卷卅張 王瀚寫眼闇不得不放知之と

云ふがある。已上六卷迄連續して書寫して來たが眼

が闇くなつて止めざるを得なくなつたと云ふ意で、

その六卷の内最後の二卷が連續した儘で殘存してゐ

るのでないか。尙又

(洪)第六十

佛説無量壽宗要經 穀紙ノ一種

尾ニ化子昇寫トアリ

大乘無量壽經 五代寫

と見えてゐる。これも同書二部連續してゐる卷では

ないだらうか。

## 燉煌戶籍殘簡について

玉井是博

一

燉煌文書の中より晉代から宋代に至る間の戶籍殘

簡が発見されてゐる。その中に於て倫敦の British